



萩原一樹
高度救命救急
センター医師長

医療最前線 新3OR始動

県立中央病院から

〈289〉

せる。別々の部屋で行っている検査と治療を一室にまとめて時間を短縮させるシ

山梨県内で唯一、重篤な患者も受け入れる3次救急医療機関である県立中央病院は8月、命の危険がある搬送患者を対象にした「ハイブリッドER」を稼働さ

ステムで、救命率の向上を図る。

同院高度救命救急センター医師の萩原一樹医師によると、現状は搬送患者の初期治療をする「初療室」、CT撮影室、血管造影装置を用いてカテーテル止血が

「ハイブリッドER」稼働へ

検査と治療全て一室で

できる部屋がある。搬送患者は必要に応じて部屋を移動する。

「検査と治療を繰り返す」

（萩原医師）こともあり、1分1秒を争う中で部屋の移動時間が患者の負担につながる課題があるという。

容量が安定せず、治療方針

の参考となる検査をしている余裕がない場合もある。

救急現場は日々、臨機応変な対応を求められる。

8月に稼働予定のハイブリッドER内には手術台とCT撮影装置、血管造影装置を設置。3部屋に分かれ

ている機能を1カ所に集約させる。萩原医師は「部屋を移動する必要がなくなるため、今まで以上に迅速な診断や治療ができる」と説明する。

ハイブリッドERは2011年、大阪の病院が初めて導入した。日本救急医学

会の論文によると、この病院の外傷患者を対象にした集計で、CT撮影時間、搬送から手術開始までの時間、止血までの時間は導入後にいずれも大幅に短縮した。重症度が高いほど救命率向上につながることも分

県立中央病院 高度救命救急センター搬送患者緊急治療の内訳



※2021～23年を集計

の3年間で534人だった。外科手術と血管内治療の両方が必要な時間のかかる症例もある。脳梗塞により、重篤な状態で搬送される患者もいる。萩原医師は「ハイブリッドERで検査と治療を迅速化させ、救命率アップや後遺症軽減につなげていきたい」と話している。

Ⅱ第2、4火曜日に掲載